

平成22年度病害虫発生予報第3号

平成22年6月1日
愛知 県

1 普通作物

イネいもち病は5月下旬現在発生を確認していませんが、気温20～25℃で降雨が続くと、発生が多くなります。本田を見回り初発生を確認した場合、速やかに防除しましょう。また、イネの補植用苗は本田でのいもち病の伝染源になります。補植終了後は直ちに除去しましょう。5月25日に本田においてセジロウンカの生息を確認しました。平年（6月中下旬）に比べかなり早い時期の飛来ですので今後の発生状況に注意しましょう。

2 果樹

モモせん孔細菌病及びカキうどんこ病の発生はやや多い状況です。ブドウでは、べと病と黒とう病の発生を一部のほ場で確認しています。今後降雨が続く場合には、ほかにもナシ黒星病やブドウ晩腐病などが急速に蔓延するおそれがあります。カキでは角斑落葉病および円星落葉病の感染時期です。それぞれの病害とも発生動向に注意し、昨年多発したほ場では必ず防除しましょう。

フェロモントラップにおけるナシヒメシクイ越冬成虫の誘殺数が多い地域があります。第2世代ふ化幼虫の防除適期は6月第3半旬頃です。適期を逃さないように防除しましょう。

有効積算温度を用いたフジコナカイガラムシの第1世代ふ化幼虫防除適期は6月6日から15日で、昨年より5日から9日遅くなっています。詳細については、本日発表の「フジコナカイガラムシ情報第1号」を参照してください。

果樹カメムシ類の予察灯とフェロモントラップにおける誘殺数は5月下旬に急増し、果樹園への飛来も多くなっています。詳細は、5月26日発表の「平成22年度病害虫発生予察注意報第2号」を参照してください。

3 野菜

施設トマト（促成・半促成栽培）の収穫が終了する時期です。タバココナジラミは、トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を伝搬します。次作トマトが黄化葉巻病に感染しないように、栽培終了後、施設を密閉してタバココナジラミを死滅させ、発病株は適切に処分しましょう。

4 花き

キク（露地）の白さび病は、梅雨に入ると発生が多くなります。特に親株床での発生に注意し、発病のないものを親株に用いましょう。なお、不要になった親株は伝染源となる可能性がありますので、できるだけ早く除去しましょう。

普通作物

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (葉いもち)	平年並	全域	昨年の発生量は平年並 5月下旬現在発生を確認していない 6月の降水量は平年並	± ± ±
	紋枯病	やや少ない	全域(早期栽培)	昨年の発生量はやや少ない	—
	縞葉枯病	やや少ない	全域	県内全域で抵抗性品種が増加 ヒメトビウンカの発生量は平年並 ヒメトビウンカの保毒虫率は低い	— ± —
	ニカメイガ	平年並	全域	予察灯およびフェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±
	ツマグロヨコバイ	平年並	全域	5月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	± ±
	イネミズゾウムシ	やや少ない	全域	5月下旬の発生量はやや少ない 予察灯における誘殺数は平年並	— ±

果樹

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	そうか病	やや少ない	全域	5月下旬の発生量はやや少ない 6月の降水量は平年並	— ±
	黒点病	やや少ない	全域	孢子形成量はやや少ない 6月の降水量は平年並	— ±
	ミカンハダニ	少ない	全域	5月下旬の発生量は少ない	—
	アブラムシ類	少ない	全域	5月下旬の発生量は少ない	—
	チャノキイロアザミウマ	平年並	全域	イヌマキにおける5月下旬の発生量は少ない 粘着トラップにおける誘殺数はやや多い	— +
ナシ	黒星病	やや多い	全域	5月下旬の発生量はやや多い 6月の降水量は平年並	± ±
	アブラムシ類	平年並	全域	5月下旬の発生量は平年並	±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
モモ	せん孔細菌病	やや多い	全域	5月下旬の発生量はやや多い 6月の降水量は平年並	± ±
	黒星病	平年並	全域	4月の発病枝率は平年並 6月の降水量は平年並	± ±
	灰星病	平年並	全域	4月の発病花率は平年並 6月の降水量は平年並	± ±
	ナシヒメシクイ	やや多い	全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い	+
	モモハモグリガ	平年並	全域	5月下旬の被害葉率は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	± ±
ブドウ	べと病	平年並	全域	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量は平年並	± ±
	黒とう病	やや少ない	全域	5月下旬の発生量はやや少ない 6月の降水量は平年並	- ±
	晩腐病	平年並	全域	昨年の発生量は平年並 6月の降水量は平年並	± ±
	チャノキイロアザミウマ	平年並	全域	イヌマキにおける5月下旬の発生量は平年並。 粘着トラップにおける誘殺数は平年並	± ±
カキ	炭疽病	平年並	全域	昨秋の発生量は平年並 6月の降水量は平年並	± ±
	角斑落葉病 円星落葉病	やや多い	全域	昨秋の発生量はやや多い 6月の降水量は平年並	± ±
	うどんこ病	やや多い	西三河地域	5月下旬の発生量はやや多い 6月の降水量は平年並	± ±
果樹共通	カメムシ類	多い	全域	越冬成虫量が多い 予察灯における誘殺数が多い フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い	± ± ±

・防除対策

【ナシ黒星病】

発病葉や発病果実は伝染源となるので、取り除き、園外へ持ち出し処分するとともに、ベルコートフロアブル、オンリーワンフロアブル、アミスター10フロアブルなどで防除を徹底しましょう。また、薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連用を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布しましょう。

【モモせん孔細菌病】

品種によっては収穫期に入るので、収穫前日数に注意しデランフロアブル、チオノックフロアブルなどで防除しましょう。

〔モモ・ナシヒメシクイ〕

芯折れ症状の枝は、見つけ次第剪除しましょう。また、芯折れが多く見られる場合は、ラービンプロアブル、モスピラン水溶剤などで防除しましょう。

〔カキ角斑落葉病、カキ円星落葉病〕

樹勢が弱まると多発しやすいので、肥培管理に注意して樹勢の維持を図りましょう。キノンドーフロアブル、ベルコート水和剤、アミスター10フロアブルなどで防除しましょう。

〔カキうどんこ病〕

昨年多発した園ではキノンドーフロアブル、ベルコート水和剤、アミスター10フロアブルなどで防除しましょう。

〔果樹共通・カメムシ類〕

5月26日発表の「平成22年度病害虫発生予察注意報第2号」を参照してください。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	白さび病	平年並	全域	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量は平年並	± ±

参考

東海地方 1か月予報 (名古屋地方気象台5月28日発表)

〈予想される向こう1か月の天候〉

東海地方では、平年と同様に、期間の前半は天気は数日の周期で変わりますが、後半は曇りや雨の日が多いでしょう。週別の気温は、1週目は低い確率70%、2週目は平年並または低い確率ともに40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い : 50% 平年並 : 30% 高い : 20%
 〔降水量〕 少ない : 40% 平年並 : 30% 多い : 30%
 〔日照時間〕 少ない : 30% 平年並 : 30% 多い : 40%

〈予想される天候の特徴〉

当地方の向こう1か月の天候は、平年と同様に、期間の前半は天気が数日の周期で変わりますが、後半は気圧の谷や前線の影響で曇りや雨の日が多いでしょう。期間のはじめは寒気の影響を受けて気温が低くなる見込みです(5月29日~6月25日の晴れ日数の平年値は約12日)。

農薬危害防止運動実施中 (6月1日から8月31日まで)

今年度の重点事項は次の3つです。

- 1 農薬ラベルの十分な確認
- 2 農薬の飛散防止
- 3 農薬の盗難・紛失等の防止